

Market Flash

「甲辰」はどんな年？
～地政学リスクが高まる！～

2024.01



日本アルプス電子 株式会社
NIHON ALPS ELECTRONICS CO.,LTD.



2024年の干支は「甲辰」（きのえ・たつ）

「甲辰」は、「新たな出発や成長、活力に満ちた年」になるようです。

昨年にコロナから解放され、ようやく希望の光が差し、芽吹き始めた卯年から、今年は、新たな出発となり活気に満ちた年になりそうです。

2024年はこれまでの殻を破って成長する「昇竜」のごとく自分自身もステップアップの年にしたいと思っています。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

干支で占う2024年 甲辰（きのえ・たつ）

2024年は**甲辰（きのえ・たつ）**

「甲辰」は、「干支」の組み合わせの第41番目で、十干の「甲」は1番目に当たる。

十干の「**きのえ（きのえ）**」は、亀の甲羅を型取った象形文字で、植物の循環では「硬い殻に覆われた草木の種子が成長の時を待つ状態」を意味している。

「甲」は「きのえ」、「陰陽五行思想」では「木の兄」と表記し、これは「木の陽」を意味する。五行の「木」は生長、柔和、曲直、春の象徴である。「陽」は積極的や大きいといった意味である。つまり「甲」は、急成長、寛大、屈曲、発展といったことを表している。

「辰」は十二支の5番目で、草木の成長が一段落し、整った状態を表している。要はすべての新芽が葉を広げ、降り注ぐ日の光を全身で浴びている中春のイメージである。

「辰」は「陰陽五行思想」では「木の陽」に分類される。前述したように五行の「木」は生長、柔和、曲直、春の象徴である。つまり「辰」も、急激に成長することを表している。

「甲」と「辰」の関係は、「木の陽」が重なる「比和」と呼ばれる組み合わせで、同じ気が重なると、その気は最も盛んになる。その結果が良い場合にはますます良く、悪い場合にはますます悪くなるという関係性である。

このように2024年の干支「甲辰」を「陰陽五行思想」で読み解くと、「春の日差しが、あまねく成長を助く」となる。成長を助ける春の日差しは、表に出ているものばかりではなく、日ごろ隠されていたものにまで寛大に広く注がれ、成長や変化を促すことを表しているのである。

「甲」という漢字は、亀の甲羅を形取った象形文字である。そこから、甲羅のような硬い殻に覆われた種を意味するものとして、十干の1番目にあてられた。また「甲羅のような硬い殻に覆われた」ということから、鎧兜など護身用具などを表すようになったともされる。

「辰」という漢字は、2枚貝が足を出している様子や、土地を耕す農具を表す象形文字である。これは古代中国ではハマグリ（ハマグリ）の貝殻を加工して農具を作ったことがあったからとされる。

口から発する音韻は、「納音（なっちゃん）」で分類される。納音とは、干支や風水と同じく「陰陽五行思想」を礎にしたもので、中国語の音韻理論で干支を整理したものである。

「甲辰」の納音は、「覆燈火（ふくとうか）」である。

これは燈籠や提灯のように火の周りを囲って辺りを照らす器具を意味している。ただし、輝く灯りとなって周囲を照らすものの、太陽や月のように遠くまで明るく照らす力はなく、あくまでも自身の身近だけに届く程度である。

このように、「甲辰」という言葉は、硬い殻を強く揺さぶって大きく成長させ、あるべき姿へと整っていく状態を表している。



* 東洋思想に見る干支 *

干支は十干と十二支の組み合わせである。

十干は太陽の運行や動物の誕生から終焉までを10等分して表現したもので、「甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸」で示される。

十二支は月の満ち欠けや作物の芽吹きから収穫までを12等分して表現したもので、「子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥」で示される。

この十干を組み合わせることで、世の中の循環、大いなる意思が司る天地の理を探ろうとしたものである。

また、干支は陰陽五行思想と呼ばれる古代中国の思想に基づいている。陰陽五行思想とは世の中のすべては5種類の元素「木・火・土・金・水」に分類され、「陰・陽」に分かれる。これらは独自の性質を持ち、お互いに影響を与え合っている。

つまり十干と十二支の組み合わせによっては、お互いを高め合ったり、もしくは打ち消し合ったり、中には片方をダメにしてしまうこともあるなど、関係性が重要な意味を持つ。

辰の雑学

【たつ年（辰年）生まれの特徴】

辰年生まれの有名人には、大御所のお笑い芸人や若手女優、バラエティ番組に引っ張りだこの女性タレントなど個性が強い方がたくさんいる。

一般に辰年生まれの人の特徴は、

1. 勇気や粘り強さ
2. 情熱的で自信を持っている
3. 個性的
4. 好奇心旺盛な行動力

【辰にまつわることわざ】

竜頭蛇尾(りゅうとうだび)：始めは勢いが良いが、終わりは振るわないことを指す。頭は竜のように立派なのに、尻尾は蛇のようにか細い様子を表している。

逆鱗に触れる(げきりんにつれる)：目上の人を激怒させるという意味。竜のあごの下には逆さに生えた鱗があり、これに触れると激しく怒ることが由来。

画竜点睛を欠く(がりょうてんせいをかく)：肝心な一点が抜けていること、詰めが甘いことを指す。中国の故事から生まれた言葉。

登竜門(とうりゅうもん)：立身出世の関門のこと。鯉が滝をのぼって竜になったという話が由来。

竜の水を得る如し(りゅうのみずをえるごとし)：強いものが一層勢いを得ること。竜が水を得て昇天するように、強いものがさらに強くなるという意味。

竜の鬚を撫でる(りゅうのひげをなでる)：とても危険なことをする例えに使う。「虎の尾を踏む」とついでになって用いられる。



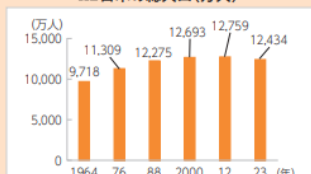
辰年の主な出来事

過去の辰年を振り返ってみると、節目となる出来事が多く起こっている。

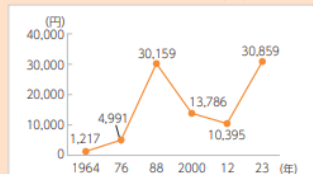
古くは、1868年（慶応4年）明治維新、1904年（明治37年）日露戦争勃発、1940年（昭和15年）日独伊同盟締結など大きな節目があった

2012年	ロンドンオリンピック（史上最多の38個のメダル）、第二次安倍内閣アラブの春、ギリシャ危機
2000年	シドニーオリンピック（高橋尚子選手がマラソンで金メダル）、森喜朗内閣長崎屋、第百生命、そごう、千代田生命、赤井電機が会社更生法申請
1988年	ソウルオリンピック（シンクロナイズドスイミングで初のメダル）、竹下登内閣、ITバブル崩壊 青函トンネル開通、ソ連軍がアフガン撤退、リクルート疑惑発覚
1976年	モントリオールオリンピック（体操で5回連続団体総合優勝）、三木武夫内閣ロッキード事件発覚、南北ベトナム統一、天安門事件
1964年	東京オリンピック（柔道が正式競技に）、池田勇人内閣新幹線開業、日本がOECDに加盟
1952年	ヘルシンキオリンピック、サンフランシスコ講和条約発効により日本が主権を回復 英国軍がスエズ運河を封、東京国際空港（羽田）が再開

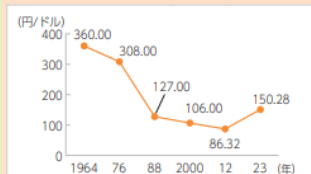
日本の総人口(万人)



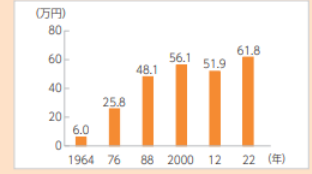
日経平均株価終値(円)



為替相場(円/ドル)



勤労者世帯実収入(万円)



年	大卒者 (男) 初任給	鶏卵 1パック	家賃 (民間世帯・東京) 1ヵ月・3.3㎡
1964(昭39)	(※1)19,800	23	674
76(昭51)	94,300	339	3,750
88(昭63)	153,100	246	6,848
2000(平12)	196,900	309	8,680
12(平24)	201,800	213	8,834
23(令5)	(※2)229,700	295	8,801



十二支にまつわる兜町の相場格言には、『辰巳(たつみ)天井、午(うま)尻下がり、未(ひつじ)辛抱、申酉(さるとり)騒ぐ。戌(いぬ)笑い、亥(い)固まる、子(ね)は繁盛、丑(うし)つまずき、寅(とら)千里を走り、卯(うさぎ)は跳ねる』とある。

戦前を含めた過去8回の「辰年」の日経平均株価の年間騰落率を見てみると、上昇した年と下落した年の割合は4勝4敗(勝率50.0%)、勝率ランキングでは十二支の中で10位タイと下位に留まる。しかし、年間の平均騰落率は+16.9%で、子年(+39.8%)、卯年(+17.0%、2023年11月30日時点)に次ぐ3位と堅調に推移した。

また、戦後1949年(東京証券取引所再開)以降の「辰年」の株式市場(日経平均)は、4勝2敗の成績で、過去6回の平均年間騰落率が+28.0%と、十二支の中で最も高いパフォーマンスを誇っている。

過去6回の平均+28%上昇するとすると42,240 過去8回の平均16.9%上昇とすると38,577
いずれも過去最高値に迫りそうだ。

■辰年の平均騰落率は首位

干支	上昇率 (%)	干支	上昇率 (%)
子	22.5	午	▲ 5.0
丑	▲ 4.7	未	7.9
寅	0.2	申	8.8
卯	18.1	酉	15.7
辰	28.0	戌	6.2
巳	13.4	亥	16.5

(注) 1949年以降の平均騰落率、2023年は11月24日まで
(出所) 筆者作成

SHIKIHO ONLINE

日経平均株価 干支別年間パフォーマンス

ラ ン グ	干 支	勝-敗	勝率 (%)	平均騰落率 (%)	騰落率(前年末→当年末、%)											
					1923年	1935年	1947年	1959年	1971年	1983年	1995年	2007年	2019年	2023年	2024年	2025年
1	亥 い	8-1	(88.9)	14.6	6.9	6.8	18.7	31.3	36.6	23.4	0.7	▲ 11.1	18.2			
2	申 さる	7-1	(87.5)	15.3	66.5	3.4	29.0	33.6	8.3	▲ 26.4	7.6	0.4				
3	子 ね	7-2	(77.8)	39.8	2.7	6.1	214.4	55.1	91.9	16.7	▲ 2.6	▲ 42.1	16.0			
3	酉 とり	7-2	(77.8)	10.7	19.1	19.1	▲ 37.8	▲ 13.6	37.6	7.9	2.9	40.2	19.1			
5	未 ひつじ	6-2	(75.0)	7.7	11.6	2.3	19.5	▲ 11.6	9.5	▲ 3.6	24.5	9.1				
6	卯 う	6-3	(66.7)	17.0	▲ 13.6	39.8	62.9	▲ 13.8	14.2	15.3	36.8	▲ 17.3	28.3			
6	丑 うし	6-3	(66.7)	1.9	9.8	19.6	▲ 17.3	5.6	▲ 17.3	13.6	▲ 21.2	19.0	4.9			
8	巳 み	5-3	(62.5)	6.7	▲ 33.1	6.5	4.2	16.5	▲ 2.5	29.0	▲ 23.5	56.7				
9	戌 いぬ	5-4	(55.6)	1.7	▲ 20.4	2.3	▲ 3.7	40.5	▲ 15.8	4.4	13.2	6.9	▲ 12.1			
10	辰 たつみ	4-4	(50.0)	16.9	▲ 12.6	▲ 20.3	118.4	▲ 0.7	14.5	39.9	▲ 27.2	22.9	?			
10	午 うま	4-4	(50.0)	▲ 3.8	▲ 26.6	26.5	▲ 5.8	2.4	23.4	▲ 39.7	▲ 18.6	7.1				
12	寅 とら	2-7	(22.2)	0.9	22.8	▲ 16.4	▲ 7.3	▲ 0.8	▲ 11.4	42.6	▲ 9.3	▲ 3.0	▲ 9.4			

(注) 1921年(大正10)～49年(昭和24)はフィッシャー式株価指数(グレー表示)、1945年の株価騰落率は9～12月の株価が発表されていないため、1946年1月の株価を使用して算出。1950年(昭和25)以降は日経平均株価。2023年は11月30日終値までの騰落率(日経平均株価:終値33,486.89円)。勝率が高い順番にランキング。赤丸は2024年の干支。(出所)各種資料より野村證券投資情報部作成

しかし、各辰年の騰落率を見ると

1952年: +118.4% 1950年に勃発した朝鮮戦争の特需が続き、資源株や軍需株が活況になり大幅上昇
1964年: ▲0.7%、日本共同証券の買い出動など、需給を改善しようとする株式対策が打たれたものの若干の下落と低迷、翌年の1965年の証券不況へと突入
1976年: +14.5%、ロッキード事件での政局不安と景気回復が混在したが、年末に輸出株を中心に急伸
1988年: +39.9%、バブル景気の中の円高、低金利でウオーターフロント株などが活況になり高騰
2000年: ▲27.2%、ITバブル崩壊によりハイテク株の業績下方修正が相次ぎ大幅下落
2012年: +22.9%、アベノミクスのスタートを機にボックス圏を上放れ年末にかけて急騰

辰年の相場の特徴としては、①1952年(辰)の翌(巳)年3月にスターリン暴落があり、②1964年(辰)の翌年(巳)5月に証券不況(山一証券が倒産)を迎え、③1988年(辰)の翌年(巳)に資産バブルがピークとなり、④2000年(辰)にはITバブルが終焉を迎えた——などの屈折点を迎える(波乱の)ケースが多い。こうしたことから、相場格言で「戌亥の借金、辰巳に返せ」や、上述のように「辰巳天井」と言われる由縁になっていると思われる。

2024年の辰年は(1)アメリカで年央頃からFRB(連邦準備制度理事会)による利下げ開始が見込まれ、秋には同国の大統領選挙に向けた混迷が予想される。(2)日本では、日銀が春闘後にマイナス金利の解除を実施し、秋の自民党総裁選挙までには解散・総選挙(衆院)選挙が有力視されている。となれば、今回もいずれ大なり小なりの波乱(辰巳天井?)を意識する日が来ることを念頭においてもよさそうだ。



～2023年 Top of Risksの振り返り～

例年取り上げているアメリカの国際政治学者イアン・ブレマー博士が率いるユーラシア・グループの「Top Risks」。

2024年のTop of Risks を見る前に昨年の10大リスクについて、現実はどうだったのか振り返ってみたい。2023年の10大リスクとして挙げたのは以下の通りである。

1. ならず者国家ロシア (Rogue Russia)
2. 「絶対的権力者」習近平 (Maximum Xi)
3. 大混乱生成兵器 (Weapons of mass disruption)
4. インフレーション (Inflation shockwaves)
5. 追いつめられるイラン (Iran in a corner)
6. エネルギー危機 (Energy crunch)
7. 世界的発展の急停止 (Arrested global development)
8. 分断国家アメリカ (Divided States of America)
9. TikTokなZ世代 (Tik Tok boom)
10. 逼迫する水問題 (Water stress)

1. ならず者国家ロシア

ウクライナ侵攻から2年がたとうとしている。いまだにロシアの侵攻は止まず、ウクライナの反撃もなかなかうまくいっていない様相である。欧米のウクライナ支援についても財政的に厳しくなりつつある。依然ロシアはならず者のままである。

2. 「絶対権力者」習近平

絶対的地位を確立した2022年からその動向が注目されたが、2023年は国内経済の停滞、特に不動産市場の崩壊により内向きの動きが中心であったようだ。しかし、引き続き中国独自の内政中心主義で経済の復活はなかなか難しい状況であり国内の不満もたまりつつあるように感じる。

3. 大混乱生成兵器

2023年の大きな話題の一つに生成AIを利用したChatGTPが瞬く間に一般社会、経済界にも浸透していった。その中で、詐欺的事件が急増したり、多くのデマが出回ったりして混乱を招くことも多くなった。2024年もこの生成AIによる大混乱はますます拡大していくものと思われる。

4. インフレーション

2023年のインフレは落ち着くことはなかった。米国では利上げは止まったが、まだまだインフレ状態は続いている。日本でも3万品目以上の商品が値上げされた。

5. 追いつめられるイラン

ハマスのイスラエル奇襲の裏にはイランの存在が噂されている。イランは国内で反政府デモが拡大する一方で、国外ではイスラエルとの国交正常化を進める中東地域におけるイランの立場の弱体化が今回のハマスの奇襲を画策したのではないかとみられている。

～2023年 Top of Risks～

2023年では、世界的にコロナから脱却できた一方で、ロシアVSウクライナ、イスラエルVSハマスと戦争状態に陥る地域が広がった。経済面では世界的インフレが金利の上昇を招き経済成長の足かせともなった。自然界では異常気象が世界各地で発生し大きな損害をもたらした。このように世界的に動乱・不安が広まった年ではなかっただろうか!?

2024年は世界で大型選挙が相次ぐ。特に、アメリカ大統領選、台湾総統選は注目される。

例年取り上げているユーラシア・グループの2024年のTop of Risks をご紹介する。

1. 米国の敵は米国
2. 瀬戸際に立つ中東
3. ウクライナ分割
4. AIのガバナンス欠如
5. ならず者国家の枢軸
6. 回復しない中国
7. 重要鉱物の争奪戦
8. インフレによる経済的逆風
9. エルニーニョ再来
10. 分断かが進む米国でビジネス展開する企業のリスク

リスクNo.1 米国の敵は米国

1. **アメリカの政治的分裂**: アメリカの政治システムは深く分裂しており、その正当性と機能が低下している。議会、司法、メディアへの国民の信頼は歴史的な低水準にあり、分極化と党派対立は歴史的な高水準にある。
2. **選挙と民主主義の危機**: 今後の大統領選は、アメリカの政治的分裂を悪化させ、国際社会における信頼性を損なうでしょう。偽情報とアルゴリズムによって増幅された偽情報の影響により、アメリカ人は国家と世界に関する共通の確定事実があると信じなくなっている。
3. **トランプの影響**: トランプ元大統領は重罪で訴追されており、彼の活動は自由で構成な選挙結果を覆そうとしている。彼の政策声明は、選挙前の国全体のナラティブ（物語・筋書き）を変え、政策の方向性を形作る可能性がある。
4. **選挙後の不安定性**: トランプが選挙に勝った場合、選挙結果の正当性に疑念を持つ多くの支持者が生まれるだろう。これはAIがもたらす偽情報とソーシャルメディアのエコーチェンバーによって悪化する可能性がある。
5. **国際的な影響**: トランプが勝利すれば、米国の国際的地位が低下し、外交政策が変わる可能性がある。特に、ウクライナ支援や中東政策に大きな影響が予想される。
6. **内政の変化**: トランプ政権下で、行政権力が強化され、チェック・アンド・バランスが弱まる可能性がある。連邦政府の機関は、政治的忠誠に基づいて運営されるかもしれない。
7. **分断の深化**: トランプの再選は、米国の社会構造、政治制度、国際的地位に長期的な影響を与える可能性がある。

リスクNo.2 瀬戸際に立つ中東

1. **現在の静けさは一時的**: 中東は近年比較的平和を保っていたが、ハマスのテロ攻撃がこの平穏を破り、地域全体を火薬庫に変えてしまった。サウジアラビアとイランの外交関係改善、湾岸協力会議の解決、シリアの外交参加などは、一時的な静けさの一部に過ぎなかった。
2. **エスカレーションのリスク**: 現在のガザでの戦闘は、2024年に拡大する可能性がある紛争の序章にすぎないとの見方がある。イスラエルと米国、イランとその代理組織（ヒズボラなど）、湾岸諸国間の抑止関係があるが、戦争の勃発を望んでいないにもかかわらず、エスカレーションの危険は高まっている。

～2024年 Top of Risks～

3. **地域の脅威:** イスラエルは北方国境のヒズボラに対する脅威を「除去」することを公約しており、ヒズボラはイランの主要な代理組織であり、イスラエル軍とヒズボラの対立がエスカレートする可能性がある。
4. **戦争の広がりや影響:** 紛争が広がると、世界経済に大きな影響を及ぼす可能性がある。フーシの攻撃により、紅海の航路が不安定になり、貨物保険料が高騰し、世界のサプライチェーンが混乱する可能性がある。
5. **国際的な政治的分裂:** イスラエルとパレスチナの問題は、米国内の分裂を深め、世界中のイスラム教徒の間で反イスラエル感情を高めるだろう。また、イスラエル軍の行動により、中東全域で政治的・宗教的過激主義が煽られる可能性がある。

リスクNo.3 ウクライナ分割

1. **ウクライナの事実上の分割:** ウクライナは、ロシアによって事実上分割されることになるだろう。ロシアはクリミア半島、ドネツク、ルガンスク、ザポロジエ、ヘルソンの各州（ウクライナ領土の約18%）の支配権を維持し、さらに領土を獲得する可能性がある。
2. **ウクライナの軍事的な課題と米国の支援:** ウクライナは人員と兵器の問題を解決し、軍事戦略を立てる必要がある。米国からの政治的・物質的支援は低下しており、今後の米国の支援は不確実である。
3. **欧州の支援の限界:** 欧州諸国はウクライナへの援助を続けているが、ドイツの予算上の問題やハンガリーの反発などにより、欧州からの支援にも限界がある。
4. **ロシアの物的優位と戦略:** ロシアは物質的にも人員に関しても優位に立っており、戦場での主導権を握っている。ロシアは経済を戦時体制に転換し、兵力と生産能力を高めている。
5. **国際的な影響とリスク:** ウクライナが分割されると、黒海地域の安全保障にリスクが生じる可能性がある。また、米国の政治的・物質的支援の縮小は、米欧の大西洋同盟に亀裂を生じさせる可能性がある。

リスクNo.4 AIのガバナンス欠如

2024年には、AIのガバナンス不足が明白になると予測されています。これまでの取り組みは遅れており、強力なAIモデルやツールが政府のコントロールを超えて普及して。

2023年には多くのAI関連のイニシアティブや政策が提案されたが、実際の進展は遅い。

1. **政治的な問題:** 各国政府間の意見の相違により、十分なガバナンス策定が難しく、AIのリスクに対処するのに必要な措置が取れない可能性がある。
2. **情性:** 政府の関心が他の優先課題に移ると、AIガバナンスの取り組みが頓挫する可能性がある。
3. **離脱:** テック企業は自主的な基準やガードレールを作ることを約束してきたが、地政学的な利点や商業的利益のためにこれらの協定や体制から離脱する可能性がある。
4. **技術的スピード:** AIの能力は急速に進歩しており、規制やガバナンスの取り組みを上回る速度で進む可能性がある。

これらの問題により、AIはソーシャルメディアのような無法地帯になり、悪用されるリスクが高まり。特に偽情報の拡散は、選挙や地政学的紛争に大きな影響を与えるリスクがある。また、AI能力の開発と獲得は、国家や企業を含む新たな地政学的主体によって進められるだろう。これにより、新兵器の開発や使用が容易になり、偶発的な危機のリスクが高まる可能性がある。

総じて、AIは「灰色のサイ」として捉えられ、そのプラス面よりもマイナス面の方が予測しやすい状態にある。AIがガバナンスされていない状態が長引けば、システム的な危機のリスクは高まり、政府が追いつくのは難しくなるだろう。

リスクNo.5 ならず者国家の枢軸

ロシア、北朝鮮、イランのならず者国家は、2022年のウクライナ侵攻以来、協力を強化し、国際的な秩序を混乱させる意向で結束している。彼らは厳しい制裁と西側への敵意を共有し、国際法違反をいとわない姿勢を示している。

1. **北朝鮮とロシアの協力:** 北朝鮮はウクライナ戦争におけるロシアへの砲弾、ロケット、ミサイル供給源となり、食料やエネルギー、技術支援と引き換えにロシアから支援を受けている。
2. **イランとロシアのパートナーシップ:** イランはロシアに自爆ドローンを提供し、ロシアはイランに主要な兵器を供給している。両国は戦略的な軍事・経済関係を強化し、西側の制裁を回避するよう協力している。

～2024年 Top of Risks～

3. **北朝鮮とイランの核・ミサイル開発協力**:長年にわたる核・ミサイル開発での協力があり、北朝鮮はイラン支援の武装勢力に武器や技術を提供しているとされている。
4. **2024年の展望**:これらのならず者国家は協力を深め、国際舞台での破壊的な行動を取ることで世界の安定に脅威を与えるだろう。ロシアはこのリスクの主な推進役となり、消耗戦を続けるための支援として北朝鮮とイランからの支援を受けるだろう。
5. **中国の役割**:中国はこの枢軸のメンバーではなく、ウクライナ侵攻を支持していないが、ロシアと北朝鮮の安全保障協力を警戒している。中国はイランとの関係を維持し、地域紛争を助けることは望んでいないが、西側との間接的な衝突を通じて利益を得ている。
6. **米国との関係**:これらの国々は米国やその同盟国への直接攻撃を避けながら、サイバー攻撃やテロ支援、偽情報キャンペーンなどの非対称戦争を仕掛ける可能性がある。中国はこの枢軸を支援することで、米国とその同盟国を弱体化させる可能性がある。

このならず者国家枢軸の動向は、国際的な安全保障環境に深刻な影響を及ぼし、特に西側国家に対して新たな安全保障上の課題をもたらすだろう。フォーラムの始まり

米国の危険な「友人」

米国の敵より危険になりつつあるが、友人も、今年は米国を拡大紛争に引き摺り込む可能性がある、としてあげたのが、ウクライナのゼレンスキー大統領・イスラエルのネタニヤフ首相、そして、**1月13日の台湾総選挙で勝利を収めた台湾の頼清徳現副総統である。**

米国の長年にわたる「一つの中国」政策と台湾との安全保障協力は、中国の侵略と台湾の独立宣言の両方を抑止する上で極めて重要だ。

中国は、今回勝利した民進党の頼清徳をここ数世代で最も台湾独立に積極的な指導者と見ており、頼が総統に（そして蕭美琴・前駐米代表が副総裁に）選出された場合、台湾海峡の不安定な現状はすぐ試練を迎える可能性がある。

リスクNo.6 回復しない中国

中国経済は、経済的制約と政治力学のために回復が妨げられており、2024年も低迷が続くと予測されている。これは、中国共産党の正統性の不足と社会的不安のリスクを高めている。

1. **成長モデルの失速**:中国の成長エンジンは使い果たされ、政府はこれを逆転させることができない。
2. **経済的不調の兆候**:外国人投資家の撤退、ムーディーズによる格付け見通しの引き下げ、不動産購入の停滞、株式市場の低迷などが見られる。
3. **政策の矛盾と規制**:政府はあいまいで相反する政策シグナルを送り、規制によって国内投資意欲が減退している。
4. **経済回復への障壁**:好ましくない人口動態、労働コストの競争力低下、高債務、欧米のデリスキングが経済復活の障壁となっている。
5. **政府の対応**:中国政府はインフラ整備に資金を投じて景況感を回復させようとしているが、効果は限定的。
6. **経済回復の妨げ**:ゼロコロナ政策の転換による影響、不動産セクターの不振、外需の低迷、政府の場当たり的な経済対応などが回復を阻む要因となっている。
7. **政治的影響**:習近平国家主席の権力集中と国家安全保障の優先は、消費者、企業、投資家の景況感に圧力をかけ、経済や金融の脆弱性への対応を遅らせている。
8. **将来のリスク**:中央の金融不安や社会不安に対する反応が遅れると、将来的にこれらをコントロールできなくなる可能性が高まる。

リスクNo.7 重要鉱物の争奪戦

2024年には、重要鉱物の争奪戦が激化し、政府の保護主義的措置が流通と価格変動を混乱させ、サプライチェーン再編につながると予想される。

1. **重要鉱物の役割と分布**:重要鉱物はクリーンエネルギー、コンピューティング、バイオテクノロジー、交通、防衛などの分野で不可欠。リチウム（オーストラリア）、コバルト（コンゴ民主共和国）、ニッケル（インドネシア）、レアアース（中国）など、一部地域に生産が偏っている。60-90%の重要鉱物が中国で加工・精製されている。

～2024年 Top of Risks～

- サプライチェーンの脆弱性:**採掘、加工、精製の地域集中により、ボトルネックやチョークポイントの影響を受けやすい。代替が困難なバッテリー金属（リチウム、黒鉛）や、交換可能なガリウムやゲルマニウムなど、鉱物の重要度に差異。
- 先進国の動向:**米国やEUが技術競争のために先進コンピューティングやクリーンエネルギー部門の強化を目指し、国内製造に補助金を提供。この鉱物需要の急増に対する対応能力は、中国依存によって複雑化。
- 輸入国と輸出国の動き:**米国とEUは中国への依存度を下げるため輸入規制を実施しているが、供給難と価格変動を増大させている。重要鉱物産出国は、輸出制限を強化し、投資を誘致し、外交的影響力を増やしている。
- 政府間の圧力:**米国とEUが鉱物の確保に努力する一方で、多くの産出国が鉱物の輸出制限を強めている。

結論として、**2024年には重要鉱物の争奪戦が激化し、サプライチェーンの混乱と価格変動が進行することが予想される。**これは各国の産業政策や貿易制限の強化により、輸入国と輸出国間での圧力が高まることに起因している。

リスクNo.8 インフレによる経済的逆風

2024年の世界経済は、持続するインフレによる強力な経済的・政治的足枷として直面している。

- インフレの継続と金融政策:**2021年から始まった世界的なインフレーションが続いており、高いインフレに対応して引き締められた金融政策が、世界中で経済成長を鈍化させている。中央銀行は2024年も高金利政策を維持すると予想される。
- 経済的・政治的影響:**インフレによる金融ストレス、社会・政治的不安が増大している。さらにウクライナ戦争や中東の緊張が原材料価格に影響し、エルニーニョ現象が食料価格を脅かす状況にある。産油国は低成長時にも石油価格を上昇させ、物価上昇を加速させる可能性がある。
- 家計と企業の対応:**インフレ圧力と高い債務返済コストにより、家計と企業は支出を削減。一方、政府はコロナパンデミックによる赤字を減らすために公共支出を削減する可能性がある。
- 地政学的リスクと選挙の影響:**金利コストの高騰やパンデミック対応などにより、政府の政策的余地が狭まっている。民主主義国での選挙では、経済不況が現職の弱体化やポピュリストの台頭を後押しする。
- 金融市場のリスク:**2023年に回復した金融市場も、高金利、低成長、リソースの枯渇により崩壊のリスクが高まる。

結論として、**2024年の世界経済は、インフレによる経済的な逆風、金融市場の不安定性、政治的分裂と地政学的緊張に直面し、世界各国で成長の鈍化や景気後退のリスクが高まっている。**

リスクNo.9 エルニーニョ再来

2024年に4年ぶりに発生する強力なエルニーニョ現象は、前半にピークを迎え、世界中に食糧難、水不足、物流の混乱、疾病の流行、移民の増加、政治的不安を引き起こす可能性がある。

- エルニーニョの影響:**エルニーニョは太平洋の海流や風の温度上昇により地球の気温を上昇させ、熱波、干ばつ、暴風雨、洪水など異常気象の頻度と規模が増大する。2024年は過去最高の世界平均気温を記録する可能性がある。
- 地域別の影響:**インド太平洋、中南米、アフリカ南部が特に大きな影響を受ける。
南アジア、東南アジア、中米、南米北部、オーストラリアは長期的な乾燥期間と高温に直面する。
米国北部、カナダ、カリフォルニア州、米国南東部も異常気象の影響を受ける。
- 農業生産と食糧供給への影響:**農業生産が脅かされ、食糧供給に深刻な混乱が生じる。主要な農作物であるコメ、小麦、トウモロコシ、パーム油、砂糖、コーヒーの不作が予想される。
- 社会的・政治的影響:**食糧価格の高騰により、食糧不安と社会的・政治的不安定が生じる。水不足は特定の地域で水力発電や原子力発電に影響を与える。食糧不安、水ストレス、自然災害の組み合わせにより、最も脆弱な国々に大きな圧力がかかる。

エルニーニョによってもたらされるこれらの影響は、世界中の多くの地域で深刻な結果をもたらし、経済、社会、政治に大きな挑戦を生じさせる可能性がある。

～2024年 Top of Risks～

リスクNo.10 分断化が進む米国でビジネス展開する企業のリスク

米国の文化戦争が企業経営に影響を及ぼしている状況は続いており、保守派と進歩派の間での政治的分断が企業に新たなリスクをもたらしている。

1. **保守派の反撃:** バイデン大統領下では、顧客、従業員、投資家（その多くは左派）が、米国の文化戦争を企業経営に持ち込んでいる。それに対して最近では、裁判所、州知事、州議会、そして活動家グループ（そのほとんどが右派）が反撃を始めている。例えば、テキサス州は化石燃料企業をボイコットする金融会社との協力を禁止。フロリダ州はディズニーに対して「ゲイと言ってはいけない」法への批判への報復措置をとった。トランスジェンダーのインフルエンサーに関するバドライトの広告が保守派の反発を招いた。
2. **政治と政策の二極化:** 米国内での党派による市場の分断が進行中。LGBTQの権利、教育政策、ワクチン接種義務化など、多様な問題で対立が激化。
3. **企業への影響:** 例えば、ウォルグリーンが中絶薬の販売を見送った後、カリフォルニア州は同社との取引停止を検討。
4. **政治的対立と法的挑戦の激化:** 連邦最高裁のアファーマティブアクション禁止判決は、企業の多様性・公正性・包括性プログラムに対する法的挑戦を強化。州ごとの法律や規制の違いが企業に厳しい選択を強いる。
5. **ビジネスリーダーへの影響:** 意思決定の自主性が制限され、事業活動のコストが上昇。政策の不確実性と規制リスクが高まる。

これらの状況は、全米でビジネスを展開する企業にとって、複雑で難しい環境をもたらしている。企業は、異なる州の法律や政策に応じて対応を考えなければならず、政治的圧力と市場リスクのバランスを取ることが求められる。このような分断化は、もしトランプ氏が大統領に選出された場合、さらに深いものとなるであろう。

<日本への影響>

ユーラシア・グループの「2024年10大リスク」レポートは、世界の政治・経済動向についての洞察を提供し、特に日本に影響を与える要素がいくつか含まれている。これらのリスクは、米国、中国、ロシアなどの主要国との関係、インフレ、台湾問題などに関連している。

1. **米国の政治的動向（リスクNo.1とNo.10）:**
米国の内政や政治的分断は、日本にとって重要。日本の経済と安全保障は米国と密接に関連しているため、米国の不安定性は日本に大きな影響を与える可能性がある。特に、トランプ元大統領の政治的動向や対日政策に注目が集まっている。
2. **中国経済の停滞（リスクNo.6）:**
中国は日本の最大の貿易相手国であり、中国経済の不振は日本経済に大きな影響を及ぼす可能性がある。中国の経済回復の遅れは、日本の輸出に悪影響を与えることが予想される。
3. **米中関係の安定性:**
台湾問題に関する米中間の緊張は日本にとって重要な関心事である。台湾総統選における独立派の動向や米中関係の行方には、日本が密接に注目している。
4. **インフレと経済的逆風（リスクNo.8）:**
世界的なインフレは日本の経済にも影響を及ぼし、特に食料品やエネルギーの輸入コストの上昇が懸念される。日本銀行の金融政策や政府の経済対策に影響を与える可能性がある。
5. **北朝鮮とロシアの安全保障上の協力（リスクNo.5）:**
北朝鮮とロシアの安全保障上の協力は、日本の安全保障にとって重要な懸念事項である。北朝鮮の軍事力増強やロシアとの連携強化は、日本の安全保障環境に影響を与える可能性がある。

これらのリスクは、日本の政治・経済状況に直接的な影響を及ぼすことが予想される。日本政府は、これらの国際的な動向に対応するための戦略を策定し、国内の経済政策や安全保障対策を調整する必要があるだろう。特に米国と中国との関係管理、北朝鮮問題への対応、インフレと経済成長のバランスが重要な課題となる。

このように見ていくと、2024年は非常に重要かつ重大なリスクを抱えながらのスタートと言えるだろう。そして、これらのリスクはいずれも日本にも大きな影響を与える可能性のあるものである。しかしながら、現政権は裏金問題に揺れ、支持率も下がり、議会では重要な議論は全て後回しになっている状況にある。だからと言って後ろ向きになるのではなく、我々の生活を守るためには常に前向きに自らを守るために努力することがより求められる年になるのではないだろうか。



～Global Risks 2022～

2024年のリスク分析に関するもう一つのレポートをご紹介します。

PHPが発表した「グローバル・リスク分析」である。内容はかなりボリュームがあるため興味のある方は以下のアドレスを参照頂きたい。ここではリスクの一覧だけを掲載しておく。

<https://thinktank.php.co.jp/policy/8299/>

Global Risks 2024

1. 選挙と戦争の嵐の中を漂流する「卓越後の米国」の国際指導力
2. 権力闘争の激化が招く習近平政権の統治能力低下と対外強硬姿勢
3. 分断化と内向き姿勢が招く高コストで低成長の世界経済
4. ガザ戦争を契機として複雑化する中東に翻弄される世界
5. 世界秩序変革の一環としてウクライナ戦争を継続するロシア
6. 北朝鮮による核実験に端を発する核危機ドミノ
7. 移民急増で極右が再台頭し不安定化する欧州政治
8. エネルギーを巡る理想と「新しい現実」の乖離で高まる不確実性
9. 外交や軍事に大きな影響を及ぼす新段階のサイバー脅威
10. 自律型アンドロイド兵士の戦場出現

